

令和6年度 第6回さぬき市地域未来づくり会議 会議要旨

開催日時	令和6年12月19日（木）午後7時～午後8時30分
場 所	さぬき市役所 303会議室
出席者	[委員・コーディネーター] 計5名 折原委員、砂川委員（WEB）、長町委員、池田委員、黒川コーディネーター [事務局] 計4名 向井審議監 政策課：北村移住コーディネーター プロジェクト推進室：大山室長、谷本主査
欠席者	なし
傍聴者	1名
次第	1 開会 2 移住体験ハウスの課題等について 3 その他 4 閉会
配布資料	次第
発言者	意見概要
座長	この会が年内最後ということで、改めて現状の課題3つの課題である「情報発信」「空き屋」「移住」の内、「情報発信」については、ワンストップ窓口が整備されたことでひとまず終えて、次のテーマとして「移住」を取り扱うこととなった。その中でも以前聞き取りをした時や総合計画の数値等を見た時に、移住支援の取組の中でも補助制度の利用率が高い一方で、移住体験ハウスの利用者が多いわりに移住に結びついていないというデータが確認できたことから、そこを運営している担当者に来ていただき、実際の生の声を聞きつつ民間側でサポートできる場所は何があるのか、この会で何ができるのかというところを今日は深掘りできたら良いと思っている。
事務局	（官民連携ワンストップ窓口について説明）
座長	続いて、本日の議題の移住体験ハウスについて、津田と多和それぞれの稼働年数や利用者数はどのようなになっているのか説明をお願いします。
事務局	（移住体験ハウスについて説明）
座長	来年に移住される方もいるため単年度での数値出しは難しいと思うが、これまでに移住体験ハウスを利用した人の中でどのくらい人が移住を決めたのか。
事務局	令和4年が1組、令和5年が1組、令和6年が1組となっており、平成27年から

	平成31年までではトータルで2組程度である。ただ、組数としては全体で52組程度なので9%程度になる。なお、今年度の特徴としては、津田で20組、多和で11組のトータル31組であるが、その3分の1の延べ10組はリピーターである。
座長	移住体験ハウスのリピーターというのは本当に検討をされている方なのか。
事務局	リピーターの方はどちらかというと検討されている方で、実際に今年度も3回利用する方がいるが、それは令和7年度に家を新築する打ち合わせのために利用されている。
座長	移住に向けた動機であり、体験というよりは移住に向けて泊まるというイメージか。
事務局	そうだと思う。今年の3月に寒川で物件を購入された方がいる。その方は千葉県とさぬき市の2拠点で生活をしているが、三木町の出身のためゆくゆくは作業場を整備しながら移住するという形で利用されている。他にも、津田へ移住を希望にされている方で、地元の不動産屋に希望する物件が出たら連絡が欲しいという形で頻繁に足を運んでいる方もいる。また、季節を変えてさぬき市をまた見てみたいという希望者もいる。
座長	それは聞いたことがある。夏だけではなく冬がどんな感じが知りたいという方もいる。2回目以降の方は、本当に移住に向けた動きが進むからこそ使われる方が多い。長期利用者の目的は何か。
事務局	3ヶ月利用される方は、子どもが小学生でありこちらで区域外就学を希望されていたため学校教育課と共に対応したが、実際に申請まで至らずキャンセルとなった。このように移住目的ではない方も一部いるとは思う。
座長	移住に繋がる確率は9%ぐらいか。来年に移住する方もいると思うが、9割方が移住に繋がっていない。そうなった時に、移住に至らなかった理由が大事になると思っている。単に、移住する気がなくて安宿として使いたい方が多いのか、あるいは、移住自体に興味はあったが必要な情報をその期間中に得られなかったのかが課題になると思っており、そのあたりの肌感覚が数字だけでは分からない部分がある。実際の印象や移住の決め手を話して帰って行く人とかはいるのか。
事務局	物件を探されている方に該当する物件がなかったというのもあるが、それだけでなく今年度は都会の方もオフィス回帰という形でリモートワークを利用する方が減ってきた。若干年齢層も高くなったということも感じている。今年度の新たな利用者

	は17組いるが、このうち8組はガイドツアーを実施したり、体験プログラムに参加したりという形で対応している。仕事だけではなく、子育て環境や働くうえでの周辺環境などを気にされる方はいる。
座長	割合だとどのくらいなのか。そこが一番重要だと思っており、そういう人も恐らくいると思う。それが一人二人の話なのか、大半の人がそういう話なのかでかなり違ってくると思っている。
事務局	移住に関しては仕事が一番だ。ただ年齢層が上がってくると、住まいや住環境的なところを重視する傾向がある。子育ても落ち着いて仕事もしなくていいから静かにゆっくり暮らしたいといった方もいる。今月で仕事が終わるから今度は妻を連れてまた体験ハウスで移住先を検討したいという方もいる。
事務局	定年やその先が見えているような人はやはり動きやすい。どうしても長期休暇などの休みでないと子どもを連れている方とかは来づらいと思う。
座長	そういった方が早めに1、2ヶ月間を抑えるので埋まっていくのだろう。宿とかも同じで、半年前や1年前から宿を取る方はそういう方が多かったり、逆に1ヶ月前くらいとなると若い方が多かったりして、それは仕事の調整とかにもよると思う。しかし3ヶ月というのは長いと思う。レアケースだとは思いますが体験してもらう人に門戸を開くという意味からすると、3ヶ月もの間1人が独占するというのはどうなのか。それは津田の体験ハウスか。
事務局	津田だけではなく多和も今年2ヶ月の利用があった。旅館などの手伝いをしながら体験ハウスの講堂で月1回行われている獅子舞の練習や秋祭に参加したりとか、山のうまいもん祭りの餅つきを担当したりとか、地域交流を主に取り組んでおり、移住を前向きに考えている方ではある。一気に3ヶ月というのはレアケースで、やはり多くの人に利用してもらいたいということで、宿泊日数に累計の上限を設けるなど利用者が増えるように要綱を変更した経緯はある。
委員	現在利用している方に向けて何かアンケートを取っているのか。
事務局	帰る時にはアンケートを提出してもらっている。
委員	それは任意なのか。
事務局	任意であるがほとんどの利用者が回答してくれている。
座長	ガイドツアーに参加されていない方が半分より少し多い。その方たちはアンケート

	でどういふことを書かれているのか。
事務局	その視点で回収したアンケートは見ていないので分からない。
座長	ガイドツアーに参加する人の方が移住につながるケースが多いのか。
事務局	個人で来ていても不動産屋巡りをする方はいる。自分たちで動くという形であるため一概には言えない。さすがに１０日間も何も考えずに滞在するという方はおらず、自分たちで考えて動かれてる。
委員	アンケート内容をこの会議で共有したい。どういふ内容なのかは分かるのか。
事務局	次の内容を質問事項に設定している。 問 1. 移住体験ハウスを何でお知りになりましたか 問 2. 移住体験ハウスを利用された目的は何ですか 問 3. 現時点で移住をどの程度お考えですかとか（場所、時期、候補地等） 問 4. 移住先を決定する際に重要視するポイントは何ですか 問 5. さぬき市にこれがあれば良いと思うものは何ですか 問 6. 体験ハウスを利用された感想を自由記述
座長	問 4、問 5 はどのような回答が多いのか。
事務局	例えば農業で生計を立てたいとか、自分自身の生活スタイルに合っているとかを重要視している方が多い印象だ。他にも、自然災害のリスクが少ないところ、住みやすさ、買い物、病院、文化と歴史のある街、毎日散策できる道、地域のコミュニティー、穏やかなところ、交通の利便性などを重要視している方が結構多い。あと教育環境や治安の良さ、子育てのしやすさとかといった意見もある。
座長	これが足りないとかはあるか。
事務局	焼肉屋、自転車専用レーン、コワーキングスペース、移住してきた方との交流や団欒できる場所のほか、地元の方がよく行くおすすめ店が載った雑誌、給食費の無償化、出産後の物資支援などがある。あと不動産屋に出ていない空き屋物件の活用、街灯が少ない、レンタカー屋、地域の高齢者をサポートする交通手段、自然・農業に取り組む支援などと言った意見もある。
座長	これまでの回答結果を受けて、来年度以降こう変えていこうとかという想いはあるか。先程の利用日数の上限変更もこれまでの回答結果を受けてされたものだと思うが、稼働率はすごくいい状況なので、今後は移住率の向上と移住に繋がる取組が重

	要だと思っている。そのあたりは何か考えはあるか。
事務局	リピーターの方が増えてきているため、より多くの方にリピーターになってもらうためにガイドツアーの参加率を上げるとか、そういうのが必要になってくると思う。
座長	滞在中に例えばガイドツアーに必ず参加するとか義務付けたら良いのではないかなと思うが、それぞれ利用目的が違うため難しいのか。
事務局	長期滞在をする場合は可能であると思う。体験ハウスは最低でも5日間からの利用になっている。また初めに市役所の窓口に来るため、そこで体験ハウスの利用許可書を送る時点である程度移住ガイドブックや観光パンフレット、支援制度のチラシとかをまとめて渡している。それを見て事前に問い合わせがある方は移住相談をしているし、必ず窓口にも来るのでその時点で何か気になったところはないかということのフォローはして、滞在中どうされるのかということは聞いてはいるが、そこで特にガイドツアーは結構ですと言われたら、そうですかと言った具合で今のところは終わっている。
座長	より定着につなげるために何があったら移住に繋がる率が上がると思うか。
事務局	難しい。仕事が一番であると移住者の方は考えているので、仕事という面は大きいと思う。
座長	仕事のサポートは何かしているのか。
事務局	仕事のことにについて聞きたいという場合は、商工観光課に就職サポートセンターがあるのでそちらに問い合わせ、滞在中に相談が来れば対応している。
座長	実際それで言うと求人内容とハウスを利用されている方とはマッチはしている感覚か、それとも求める職種の求人が全然ないという感覚か。
事務局	ないという感覚だ。
座長	という状況だとすると、今就職サポートセンターへ繋ぐということは効果があまりないという見方もできる。例えばリモートワークが可能な方に対する求人も出ているものなのか。
事務局	さぬき市内でいうと製造業が圧倒的に多く、次に卸売業と続いているので、恐らくリモートワークのような求人はあまりないと思う。さぬき市の企業だけではなく近

	隣の三木町や東かがわ市、高松市といった通勤圏内の企業の紹介はしている。
委員	傾向的にはどのような感じなのか。リモートワークを求めている人が多いのか。
事務局	情報系の職種を求めている方もいて、比率的にはその方が多い感じがする。
事務局	情報系の職種を求めている人は、移住してきてリモートで元の会社に所属したまま働けるとか、個人事業でスキルがある人が増えてきている印象だ。アンケートでコワーキングスペースと回答された人は恐らくその関係の人だと思う。もっと利用したいが長期間利用されている人がいるために利用を阻まれたり、断ったりしている人も結構いるのか。
事務局	いるがそんなに多いわけではない。
座長	予約が埋まっているためそもそも問い合わせがないのかもしれない。
事務局	カレンダーで利用予約済みにしているが、できたら可能性のある人になるべく来てほしい。津田を利用したが予約が埋まっているため多和を利用する方もいる。あとさぬき市内の宿泊施設に宿泊すれば3泊まで宿泊費の半分、上限3,000円を3人まで補助する制度を紹介している。
事務局	移住に向けてどのような活動をしてどのような問題があるかといった移住に対する本気度を試すようなアンケートも必要だと思う。
委員	最終のゴールを移住と考えた時、明確にこれがあれば移住するとか、逆にこれだから移住しないみたいなのが見えていないと思うので、それはむしろこちらから作った方が早いのではないかなと思う。もちろん財源や実現可能性を一旦横に置いた話にはなるが、移住をリアルに想像した時に20代から30代の子育て世帯が移住するハードルよりも、単身世帯や子育てが落ち着いた50代とかが移住する方が身軽だろうということは想像ができる。20代から30代の500人に移住のことについて聞いた2023年のアンケートでは、ありきたりな自然あふれる環境や子育てに適したところ、コスト削減などの回答がある中で、やっぱり仕事のことは結構重視するという声が上がっていて、一番の希望が勤務時間にとられない仕事がしたいという回答が多い。このアンケート結果から、こちらからさぬき市はこういう人に来てほしいこういう人に優遇しますというコンセプトみたいなものを決めて、その条件を満たしている人の最終チェックの場として移住体験ハウスを利用していただくという戦略的な取組はできそうだったと思った。その上で誰をターゲットにするのかと言うと20代から30代のフリーランスあるいは副業している人が良いと思っている。本業がフリーランスの方は今の日本に200万人ぐらいいて、副業を

	入れると２５０万人ぐらいいる。２０代から３０代前半で言うと２０万人弱がターゲットになるが、毎月１００人を連れてこようと思うと大変だが、年間１０人来るだけでも今より前進していると考ええると広いターゲットだと思う。あと実現可能性を無視した話として、例えば、さぬき市に来たらフリーランスは家賃無料や税制優遇されたり、フリーランスタウンみたいな構想を描いてそこでフリーランス同士の受発注で収入が成り立ったりといった、大掛かりな仕掛けまでセットでやれるとすごい動きが出ると思う。
座長	コワーキングスペースの話も近いと思う。このようなフリーランスの人を応援する企業がさぬき市内に２０社ぐらいあって、デザインの仕事を発注したりウェブの仕事を発注したりするというイメージか。
委員	仕事の発注までなくても良いと思っていて、安定的にフリーランスで本業として成り立っている人は既に案件があるので、どちらかと言うと生活に関係したコストが下がるだけで手取りが増える話になってくる。
座長	シンプルに家賃が下がる分手取りが増えるという話か。
委員	そうだ。都心部と比べると極端に下がると思う。特定の層に向けてキャンペーン的なものを打ち出して、あくまで最後のチェックとして移住体験ハウスを利用してもらうという設計の方が効果はあると思う。
座長	今、さぬき市としてこの層にターゲットを絞るというよりかは、幅広く色んな方に来てもらうという対応であり、フリーランスや子育て世代も利用している。
事務局	子育て世帯の人を優遇することは割と言いやすいが、フリーランスの人を優遇することは子育て世帯に比べると言いにくい雰囲気はある。ただ、フリーランスの人が割と移住しやすいということがあるのであればそういう人もターゲットにしていくことは可能だとは思う。また、別の流れとしては外国人の方が色んな業種で増えてきている。
委員	それは外国人の方の移住を進めていきたいということか。
事務局	今人口減少が激しい中で何とか誰かに来てほしいと考えた時に、外国人の方の来ていただくことは今の時代に比較的マッチしていて割と取り組みやすいのではないかなと思う。とにかく今さぬき市では子どもさんが生まれないため自然減がすごく大きい。移住定住関係は様々な補助制度により社会減は一定程度改善してきているが、高齢化社会で亡くなる方がすごく多い一方で生まれる人が以前であれば年間３００人から４００人だったものが、一昨年では１７０人、去年では１５０人程度に

	までなっていて今年はそれよりまた一段と減っている。そうした中で、どんな人が来てくれても良いが、やはり子どもが生まれないというのはすごく大きな人口減少の要因でもあるし、例えば学校についてもせっかく統廃合したにもかかわらず学校が維持できなくなっていくことにもなっていくので、子育て世代はターゲットにしたい。ただ他の自治体と差別化を図ろうとすると財政的な負担がかかることも事実としてある。
座長	例えば男木島の学校が再開したケースは行政だけの力かと言えば多分そうではなく、むしろ民間側の後押しもあって子どもが増えて学校を再開したと思うが、それをトータルで見ると良いかどうかでしかないと思う。今まさに20代の方で移住をされて子どもが生まれる方もいるし、夫は地元企業で働いているが妻はリモートの仕事をされている。
事務局	大きな財政負担によって無理やり移住者を引っ張ってきても他にお金が回らなくなり行政としてのバランスが悪くなり、市民の人の満足度が下がり不平不満が溜まることにもなるのであまり偏ったことを言うことは難しいと思う。
座長	来てほしい層の人に来てもらうためにはどうするかとその層の人が来た時にどうサポートしていくかが大事だと思う。今2つの移住体験ハウスは移住コーディネーター1名で管理しているのか。
事務局	手が足りない時は他の職員の方にも助けてもらっている。
委員	アンケートをデータ化して共有できる形にすると理想的だと思う。
座長	全体の業務を100とした時の移住体験ハウスの管理業務はどのくらいの割合になるのか。
事務局	30組来るということは入所と退所の時に立ち会うので60日は管理業務を行っていることになる。
座長	清掃もしているのか。
事務局	そうだ。年1回は清掃業者に委託している。
座長	ハウスの管理業務以外は何をしていることが多いのか。
事務局	移住相談や補助制度の受付などを行っている。

座長	現状ここが手届いてないなと感じる点や、このまま続けていけば良くなるという感覚はあるか。
事務局	現状では移住者がいきなり大きく跳ね上がることはないと思っている。移住相談の件数も年々少しずつだが増えては来ているが、そこからどれだけ移住に繋がっているのかと言えばそこまで大きな成果は出ていない。移住フェアではさぬき市を知らないという方がほとんどの状態なので、まず来て知ってもらいたいということで移住体験ハウスを紹介している。
座長	今一番のネックは仕事だと思う。このハウス利用期間中に働けそうな会社が見つかったら本格的に移住を検討する意識に変わる可能性はあると思うが、住む場所が要因としては大きそうか。
事務局	それは家族構成によって異なる。
座長	全体としてインパクトが大きいのはどちらか。
事務局	仕事があった方が人は来ると思う。
事務局	先日ガイドツアーで大阪の人に小学校を案内してきたが、都会の人から見ればこれほど良い環境はないとのことであった。給食についても園内調理をしている保育所に反応されていた。また、都会から来るということで受験のことで迷われている方もいる。
座長	そういう層に来てもらうべきだと思う。そもそも受験して学歴を身に付けても子どもたちの時代では意味がないという理解がある親世代に移住してもらうべきだ。
委員	話が戻るが、フリーランスの人を移住ハウスで増やすために、例えば割引制度を導入することはどうか。例えば体験ハウスそのものを1泊5,000円くらいに設定し、来て欲しい層には安く利用させるみたいな感じだ。
座長	来て欲しい層は今と同じ格安で泊まれるけど、そうじゃない人は一定の負担が必要ということだと思うが、安宿として使われない程度の価格帯にはしておく必要があると思う。あとどこまでがフリーランスなのかという基準は結構ややこしいと思う。
委員	価格の引き上げ自体は可能なのか。
事務局	可能だ。

委員	開設当初から今の価格なのか。
事務局	価格は開設当初から変わっていない。
委員	価格の見直しが議論に上がることはなかったのか。
事務局	ない。
座長	移住体験ハウスの予算は基本的には光熱水費や家賃とかになるのか。
事務局	津田は民間から借り上げているので家賃の支払いをしている。
座長	年どのぐらいの予算なのか。
事務局	津田は家賃と光熱水費と消耗品費等で１００万円程度だ。多和は市の施設なので光熱水費と消耗品費ぐらいしかない。
座長	一番費用のかかる清掃を自前でしているため、その部分の人件費が一番かかっていると思う。他の自治体も同じようなケースが多いのか。移住体験ハウスで参考にしているところがあれば教えてほしい。
事務局	小豆島は稼働率は良いが、予定外の利用者がいるということで運用ルールは厳しくしていて、１ヶ月前からの申請はできないとかキャンセル料は必要といったことを定めていてハードルは高めだと思う。
座長	運用で良いと思う自治体はあるか。例えばガイドが手厚いといったことだが、四国中央市は２泊以上７泊以内というルールだった。
事務局	淡路島は単に利用したいという申請だけではなく、こういった動機なのかといったことを事前の面談で細かくチェックしている。さぬき市では、申請フォームにある移住目的のところをチェックされたら受付けている。
座長	そのあたりは何か改善しようと思っているのか。改善しようとしてもそういうところまでは手が回らない状況なのか。
事務局	そこまでハードルを上げることは考えていない。コロナ禍前まで稼働率が５割に届かない程度であったが、この３年で稼働率が急に上がってきて、さぬき市を知ってもらえる２施設になったので、今は利用者が順調に増えてきていることが一番良い

	と思っている。
事務局	今移住体験ハウスの課題に対する改善策を議論しているが、移住者を呼び込むために移住体験ハウスの運用をどう変えたら良いかということが議論の本質だということの良いか。
座長	そうだ。移住体験ハウスの利用者は多いが実際の移住に繋がっていないので、逆に改善のインパクトが一番大きい部分と言うところが議論を始めた理由だ。ツアーの一部を除いて、不動産屋としか出会ってない利用者も多いことがすごくもったいないとっていて、民間との連携の余地があるものかを模索したいことが一つある。仕事の話だが仕事の紹介の仕方が今の形のままで難しいとっていて、求人サイトに掲載する企業の性質と来る人の性質、あといわゆる都市部の人働きたいと思うような企業の性質と求人の仕方がミスマッチしていると感じている。新潟県では移住のサポートサービスの全般を民間委託しており、成果が上がっている。施策としては同じだが、見せ方と運営の仕方で、例えば事前のオンラインでの相談は当たり前のようにはしていたり、移住後のコミュニティづくりのため先輩移住者と繋いだり、補助金や不動産情報のほか子育て情報や移住へのステップの事例も掲載しており、誰でも来てくださいと言った感じでターゲットを絞っていないが、こういうパターンの移住はできるということを書いている。例えば、在宅ワークをしている先輩移住者の話や移住を決めた理由、生活の様子を動画で掲載しており移住後のイメージが想像しやすくなっている。ここは仕事探しまで企業にこのような人がいるので是非という形のサポートまでしている。
委員	この中間事業者に来てもらうためにはどうしたら良いか考えた方が現実的な気がする。
座長	結局予算の話になる気がする。移住定住事業に職員を割かない代わりに、例えば3人分の人件費相当額分を民間に委託するやり方だ。
委員	ノウハウを持ち実績がある事業者に来ていただくことも検討の余地があると思う。
座長	実際これはスキームとしては結構シンプルで、さぬき市だと地域おこし協力隊の制度だと思うが、例えば移住定住を任務として協力隊を採用し事業者が隊員のマネジメントを行いながら仕事や不動産、移住体験ハウスを全部一括で隊員1人が対応し最後まで支援するようなものだ。基本的には民間委託でさぬき市が行っている業務委託形式と同じでまちの賑わい創出を移住定住に使うイメージだと思う。これをやろうとすると、移住定住の窓口業務と協力隊のマネジメントを委託することになり結構大変ではあると思う。また民間委託するから職員が全く移住定住のことをしないということはないと思うので、どうやって民間と行政がタッグ組んで役割を分担

	していくのが重要だと思う。これに関しては財政負担の少ない形でやるというところの限界もあるはずなのでどこまで議論すれば良いのか。
事務局	参考にモデルを作って提案するまでではどうか。
座長	次回以降、先進的な取組を参考にしつつ、さぬき市に落とし込むことを考えていきたい。人材派遣の企業がこういうことに興味あるということになると話が変わってくる気がしていて、そこの最初の窓口と面談を人材派遣の企業にやっていただいて、その中で仕事を本気で探している人だけが移住体験ハウスに正式に申し込みできるという流れにするだけで、人材派遣の企業はコストゼロで仕事を探している人と出会えるし、さぬき市としては企業を公募してみるとかであれば無償でできる話だと思う。そのあたりを次回以降考えていきたいと思う。 以上で、本日の会議は終わりたいと思う。 ～閉会～